

第 83 回 企業活性化研究分科会・議事録

＜第八三回 2015 年 10 月 10 日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎）＞
参加者：井端、大野、夏目、浜田、宮川、山本、渡邊（7 名）

1. テーマ：再生企業の分析—株式会社エナリス—

- ・報告者：浜田勇毅
- ・配付資料：6 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、株式会社エナリス（以下、エナリスとする）の粉飾内容を明確にしたうえで、経営の再建を図るための検討を行った。エナリスは、PPS 業務代行や、PPS 事業者に対する卸電力売買取引の仲介を事業目的とする会社である。PPS に関連する産業は、近年において注目が高まり需要が増加傾向にある業種であるため、エナリスは毎期高い成長率を維持していた。しかし、平成 26 年 10 月に過去の取引に関して不適切な会計処理があることを指摘され粉飾の事実が発覚した。

エナリスの粉飾会計処理は売上高及び売上原価の架空計上である。エナリスの粉飾は、東京証券取引所に上場する以前から繰り返し行われていた。加えて、多額の増資を行う前にも架空売上等の粉飾をしていた。分析した結果、エナリスは毎期高い成長率を維持しており、毎期当期利益の計上をしていた。しかしながら、エナリスが粉飾をおこなう動機や背景について議論が生じた。また、今回は有価証券報告書から得られる財務データが少なく期間比較による収益性分析を行うことが十分に出来なかった。それゆえ、取得できるデータの限界があるものの、収益性分析や粉飾の動機等の追加検討を行なうこととした。

2. テーマ：ROE 及び ROA の再検討

- ・報告者：山本洋信
- ・報告内容の要旨

本報告では、ROE と ROA の概要について古山徹「日本企業の ROE の問題点-日本企業の ROE を上昇させるために必要なことは何か-」の発表資料を参考に再検討した。ROE は様々な分解式が存在する。そのうち森脇彬による ROE（税込みベース）は、税引前当期純利益 ÷ 純資産合計（期首期末平均）× 100 で表される。ROE は投下された資本を利用して、どの程度利益を稼ぎだしたことを示す指標である。また、ROA は M（売上高利払前税引前当期純利益）と T（総資産回転率）を掛け合わせたものであり、当該企業の事業の利回りに着眼すべきとの議論が生じた。

3. 今後の予定について

- ・11 月 7 日（土）分析企業・株式会社京王ズホールディングス-高市先生
- ・12 月 12 日（土）企業活性化研究分科会会員による忘年会

（文責：浜田勇毅）